

# 弓張平H遺跡 発掘調査報告書

財団法人  
山形県埋蔵文化財センター



6-1995-1178-01

1994

財団法人 山形県埋蔵文化財センター

1995
1178
6

ゆみ はり だいら  
**弓張平H遺跡**  
**発掘調査報告書**



1995 - 1176

平成6年3月

財団法人 山形県埋蔵文化財センター

## 序

本書は、財団法人山形県埋蔵文化財センターが発掘調査を実施した、弓張平H遺跡の調査結果をまとめたものです。

弓張平H遺跡は、山形県のほぼ中央部に位置する西川町にあります。西川町は北方を靈峰月山、南方を朝日山系に囲まれ、そこから発する最上川最大の支流寒河江川の流域を中心に、内陸と庄内を結ぶ交通の要衝として、また出羽三山の登拝口として栄えてきました。

調査では、旧石器時代末葉の石器及び石器製作の際の剥片が検出され、当時のこの地域の人々の生活の様子を知る手がかりが得られました。

埋蔵文化財は祖先が長い歴史の中で創造し育んできた貴重な遺産といえます。私たちは国民的財産の文化財を大切に保護し、さらに郷土の歴史の中で培われた文化を後世に引き継がねばなりません。一方、平和で豊かなくらしは私たちが等しく切望しているところです。近年、高速自動車道やバイパス、農業基盤整備事業など国県等の事業が増加していますが、これに伴い事業区域内で発掘調査を必要とする遺跡が増加の傾向にあります。

事業区内の遺跡の調査は、埋蔵文化財保護と開発事業実施のため、適かつ迅速に行われることが今日求められています。こうした要請に適切に対処するとともに埋蔵文化財調査体制の充実を図ることが急務とされ、平成5年4月に財団法人山形県埋蔵文化財センターが設立されました。職員一同、県民と関係各位の要望に応え本県の埋蔵文化財保護のため一層の努力をいたす所存です。今後とも当センター発足の目的が遂行されるようご支援ご協力を賜りたくお願い申し上げます。

本書が文化財保護活動の啓蒙普及、学術研究、教育活動などにおいて皆様のご理解の一助ともなれば幸いです。

最後になりましたが、調査においてご協力をいただいた地元の方々をはじめ関係各位に心から感謝申し上げます。

平成6年3月

財団法人 山形県埋蔵文化財センター  
理事長 木 場 清 耕

## 例　　言

- 1 本書は、都市公園整備事業（弓張平公園整備工事）に係る「弓張平H遺跡」の発掘調査の報告書である。
- 2 発掘調査は、山形県土木部の委託により財団法人山形県埋蔵文化財センターが実施した。
- 3 調査要項は下記のとおりである。

遺跡名	弓張平H遺跡 (CNKYD-H)	遺跡番号	522
所在地	山形県西村山郡西川町大字志津字蛇ヶ岳		
調査期間	発掘調査	平成5年4月1日～平成6年3月31日	
	現地調査	平成5年8月2日～平成5年9月8日	22日間
調査主体	財団法人山形県埋蔵文化財センター		
発掘調査・資料整理担当			
調査研究課長	佐々木洋治		
主任調査研究員	野尻 優		
調査研究員	浅賀喜悦		
嘱託職員	志田純子		

- 4 発掘調査及び本書を作成するにあたり、山形県土木部都市計画課、山形県公園事務所、西川町教育委員会等関係機関、並びに西川町の方々の協力を得た。ここに記して感謝申し上げる。
- 5 本書の作成・執筆は、浅賀喜悦、志田純子が担当した。編集は安部 実、伊藤邦弘が担当し、全体については佐々木洋治が監修した。
- 6 遺物実測図のうち6・7・8・11については、株式会社シン技術コンサルに実測業務を委託した。
- 7 出土遺物、調査記録類については、財団法人山形県埋蔵文化財センターが一括保管している。

## 凡　　例

- 本報告書執筆の基準は下記のとおりである。
- (1) 調査区概要図・遺物分布図中の方位は磁北を示している。
  - (2) グリッドの南北軸は、N-20°00' - Eを割る。
  - (3) 遺跡関係の捕図は1/500、1/70、1/40縮図で採録し、各捕図毎にスケールを付した。
  - (4) 遺物実測図は1/2で採録し、スケールを付した。
  - (5) 遺物図版については、ほぼ1/2で採録した。
  - (6) 本文中の遺物番号は遺物実測図・石器計測一覧表・遺物図版とも共通のものとした。
  - (7) 基本層序の土層の色調の記載については、1993年版農林水産省農林水産技術企画事務局監修の「新版標準土色帖」に従った。

## 目　　次

I 調査の経緯	
1 調査に至る経過	1
2 調査の方法と経過	1
II 遺跡の立地と環境	3
III 遺構と遺物	
1 層序	4
2 遺構	4
3 遺物	4
IV まとめ	
報告書抄録	9
	10

## 表

表1 石器計測一覧表	8
------------	---

## 挿　　図

第1図 遺跡位置図	2
第2図 調査区概要図	3
第3図 基本層序図	4
第4図 遺物分布図	5
第5図 遺物実測図	7

## 図　　版

図版1 遺跡遠景　調査開始時の状況　調査状況　基本層序	
図版2 調査状況　木葉尖頭器出土状況　撃器出土状況	
図版3 遺物出土状況　砾群検出状況　調査説明会状況　調査終了状況	
図版4 出土遺物	

## I 調査の経緯

### 1 調査に至る経過

今回の発掘調査は、都市公園整備事業（弓張平公園整備工事）によるものである。

この地域は、昭和30年代から旧石器時代の遺跡が存在することが研究者の注目を集めている。昭和44年国の「東北中央大規模レクリエーション基地」構想に含まれ、また東北横断自動車道仙台～酒田線の計画とあいまって、運動公園を核としたレクリエーション基地の構想が立てられた。弓張平H遺跡は、開発に先立って昭和51年に県教育委員会がこの一帯の分布調査を行った際、旧石器時代の遺物の散布が確認され新規に登録された。

新たに、本遺跡周辺がオートキャンプ場の付帯施設として造成されることが決定したため、県教育委員会が平成4年7月に試掘調査を実施し、1m×3mのトレーナーを4か所入れたところ、うち西側の2か所より剝片や碎片などの遺物が検出され、南北12m東西25mの範囲を中心とする旧石器時代の包蔵地と推定された。

その結果をもとに、事業主体である山形県土木部都市計画課、山形県公園事務所、地元の西川町教育委員会などの関係機関と協議を重ね、遺跡の想定される範囲のほぼすべてである300m<sup>2</sup>について、財団法人山形県埋蔵文化財センターが調査主体となって、造成工事に先立ち発掘調査を行い、記録保存を図ろうという運びになったものである。

### 2 調査の方法と経過

調査はまず発掘調査予定範囲の環境整備（立木の伐採・抜根作業）から始めた。樹齢数十年のブナ・ホオ・ナラなどの広葉樹であるが、深い積雪に耐えるためか複雑に根を張っており、その処理作業にかなりの労力と時間を要した。

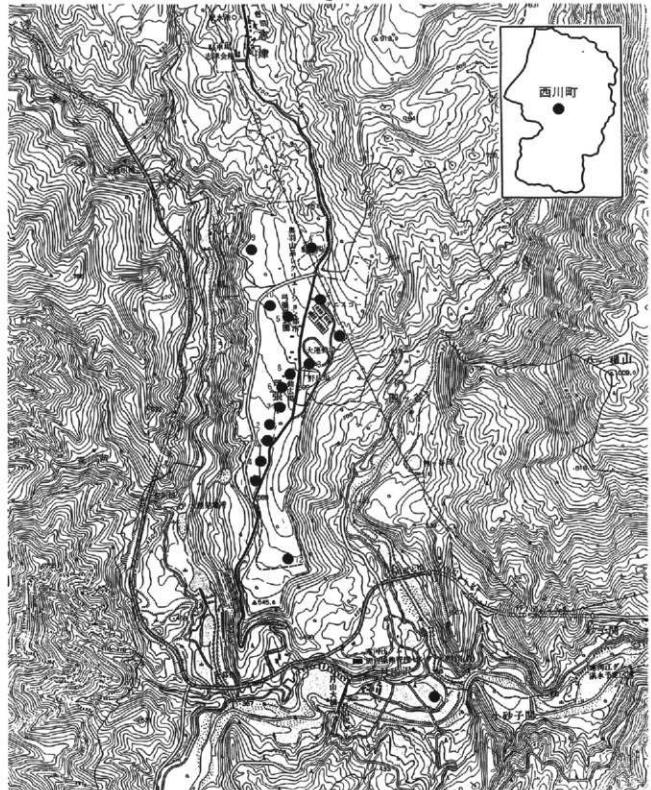
環境整備作業と並行して、グリッドの設定を行った。本遺跡では2m×2mを単位として、遺跡の立地する丘陵の尾根の稜線の方向を基準の軸とした。南北軸は磁北より20° 東に振れている。

グリッド設定終了後、稜線に沿って1m四方の坪掘りを10か所入れ、土層と遺物分布の確認を行った。この坪掘りによる試掘は、結果的に遺物の分布範囲から外れていたために良好な結果を得られず、土層の確認を行ったにとどまった。

環境整備の終了とともに、予定面積の全面的掘り下げを行った。前年度分布調査の結果、遺物の主な包蔵層がIIb層であることが判明していたために、I層・IIa層まではスコップを用い、それ以後は移植べら・竹べら等により遺物の検出に努めた。

日程中頃から、遺物の出土が調査区西側に偏ることが明らかになってきたため、西半部に集中的に努力を注いだ。

なお、当初の現地調査予定期間は平成5年8月2日から31日の17日間であったが、環境整備に想定以上の時間がかかることから、山形県公園事務所と協議を行った結果、調査期間を1週間延長し、9月8日までの22日間と変更した。



- 1 弓張平H遺跡      2 弓張平A遺跡      3 弓張平B遺跡  
 4 弓張平C遺跡      5 弓張平D遺跡      6 弓張平E遺跡  
 7 弓張平F遺跡      8 弓張平G遺跡      9 弓張平I遺跡  
 10 弓張平J遺跡      11 弓張平K遺跡      12 弓張平L遺跡  
 13 弓張平M遺跡      14 弓張平N遺跡      15 弓張平O遺跡  
 16 月山沢遺跡 (寒河江ダムに水没)

「山形県遺跡地図」(1978年)、「分布調査報告書類」(1993年) 山形県教育委員会、  
 「弓張平A遺跡発掘調査報告書」(1980年) 西川町教育委員会による。

第1図 遺跡位置図(S=1:25000)

## II 遺跡の立地と環境

弓張平は、姥ヶ岳を起源とする溶岩流を基底とする台地の末端部に広がり、旧石器時代末葉から縄文時代の遺跡が15か所確認されている。

本遺跡に最も近い弓張平B遺跡は、1977年から79年にかけて5次にわたる発掘調査が山形県教育委員会によって実施され、有舌尖頭器やナイフ形石器の層位的把握等の成果を残している。

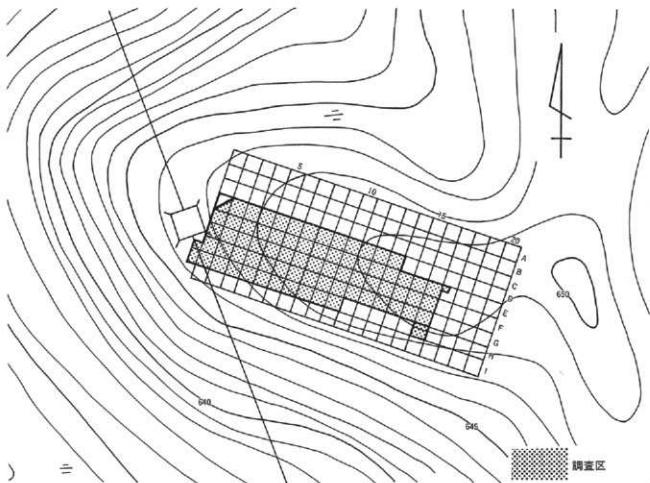
また、弓張平A遺跡は1979年に西川町教育委員会による発掘調査が実施され、縄文時代早期の住居跡・土壙・石器群のユニットが検出されている。

本遺跡は、弓張平運動公園の北西部、旧国道112号(六十里越街道)と弓張平公園駐車場にはさまれた小丘陵の頂上部に位置している。

標高は647m~649mほどで、弓張平公園駐車場との比高は約15mを測る。弓張平の遺跡群の中でも、最北地点・最高地点ということになる。

現在の地目は広葉樹の雜木林である。

また、西川町には槇子遺跡・お仲間林遺跡(本年度山形県埋蔵文化財センターにより発掘調査実施)・月山沢遺跡(寒河江ダム完成により水没)・松の木平遺跡など旧石器時代の良好な資料を出土する遺跡が数多く存在している。



第2図 調査区概要図(S=1:500)

### III 遺構と遺物

#### 1 層序

今回の調査区における層序は第3図のとおりである。

IIa層までは、立木伐採・電柱工事・鉄塔工事等により擾乱を受けている。

IIb層が今回の調査の中心となる層であり、検出されたツールのほとんどはこの層からの出土である。

#### 2 遺構

本遺跡からは、遺構らしきものは検出されていないが、H-0グリッドからH-1グリッドにかけて、数十個の礫の集中があった。火熱の跡が認められるものもあったが、調査区外に広がり、全容を検出できなかった。炭化物等も伴わず性格は不明である。

#### 3 遺物(第5図、表1、図版4)

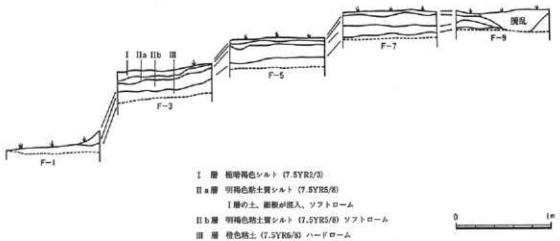
総点数は215点、うちツール12点、2次加工のある剝片2点である。土器は検出されていない。

【石材】石材は、ほとんどが頁岩であり、例外的に玉髓質の剝片が数点あるのみである。近くに露頭がある黒曜石は1点も検出されていない。

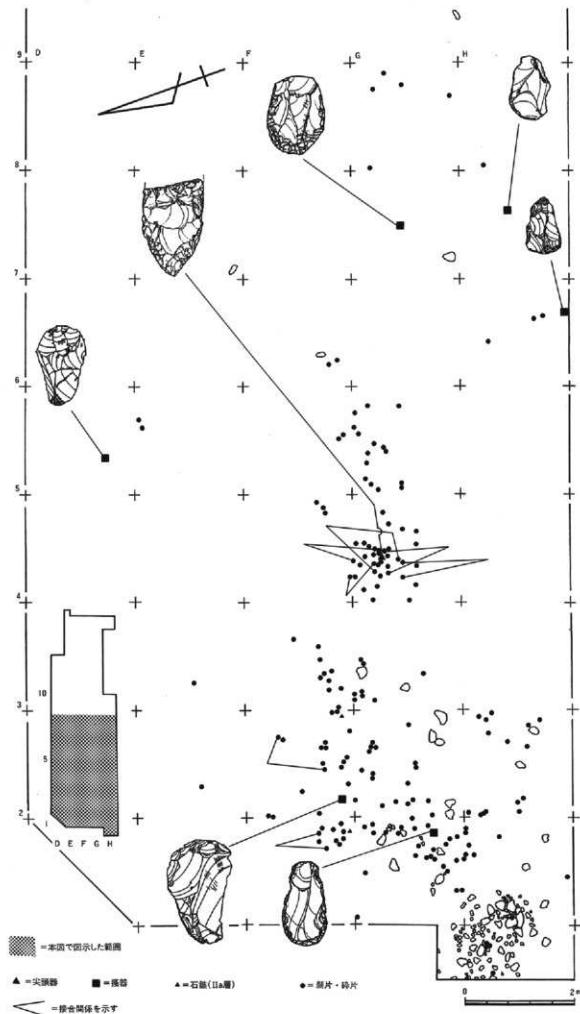
ツール12点の石材は各々異なる。また、剝片の石材の分類を試みたところ、大まかに分けても10種類ほどに分類できた。多様な石材が持ち込まれたことがうかがえる。

剝片の観察結果、表皮を残すものがほとんどなく、原石の状態ではなく、半加工状態で持ち込まれ、仕上げの加工が行われたものと考えられる。

【分布】調査区西南部に偏る。9列のグリッド以東(小丘陵の頂上平坦部)からの遺物は皆無である。また、F9列のグリッドの北辺の線が、遺跡の立地する小丘陵の尾根の稜線とほぼ一致するが、その北側からもほとんど遺物が出土していない。



第3図 基本層序図 (S=1:40)



第4図 遺物分布図 (S=1:70)

G-4 グリッドは、木葉形尖頭器を中心として剥片の集中がみられ、1つのブロックと考えられる。接合できた剥片が5組あり、尖頭器を目的とした石器製作場と考えられる。ただし、接合した剥片と出土した木葉形尖頭器の材質は一致しない。

F-1・2・3、G-1・2・3 グリッドには、撲器2点を中心としたブロックが想定できる。IIb層下部に礫が散在するが、台石と確認できるものはなかった。

8・9・11・12の撲器は、上記の石器製作場と考えられる範囲とは隔離して検出されている。周囲には剥片もまばらである。多角的な分析をしなければ断定できないが、石器製作とはまた異なった、動物の解体等の生活空間を想定できるのではないかと考えられる。

【石錐】1は変形變形を示す。左基部に打面を残す。やや内湾気味に先端部を作り出す。2は基部がわずかに四凹をなす。右側縁から先端部が欠損しているが、推定全長4cm近いやや大形のものである。3は基部の作り出しに2と類似した特色を持つが、先端部が欠損しており詳細は不明である。4はわずかな残存部である。ていねいな剝離が施されており尖頭器の先端部という可能性もあるが、詳細は不明である。

【石錐】5はある縦長剥片を利用して、背面を加工した後に主要剝離面に加工を加え、先端に錐部を作り出している。錐部の断面は平行四辺形状である。

【木葉形尖頭器】身部のほぼ中央、最大幅を測る付近より先端部が欠損している。背・腹両面から、押圧剝離が施されているが、やや雑な感じを受ける。推定全長13~14cmのかなり大形の尖頭器である。

また折断後、折断面から基部に向けて剝離を施して、再利用を試みた跡があるが、完結していないようである。

【撲器】A類(7・8)やや厚めの縦長剥片を素材とし、打面・打瘤を残したまま刃部正面及び側縁まで調整を加えたもの。特に7は丁寧な剝離が施されている。8は火熱を受けしており火はねにより刃部の先端等が欠損している。

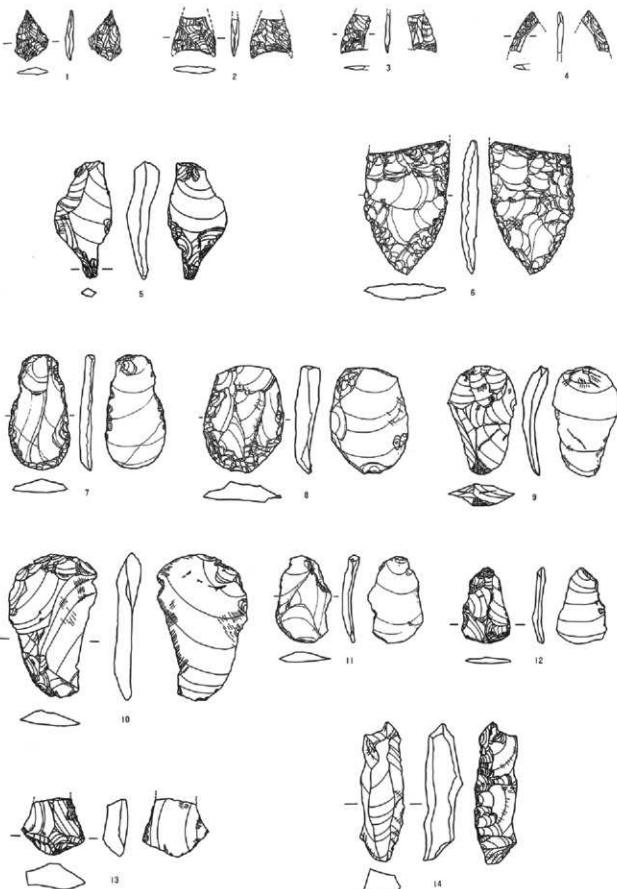
B類(9)薄手のやや湾曲した縦長剥片を素材とし、打面・打瘤を残したまま先端の狭い範囲にのみ調整を施して刃部を作り出している。

C類(10)薄手で大形のやや湾曲した縦長剥片を素材とし、打面・打瘤を残したまま刃部正面から、左側縁にかけて調整を加えている。

D類(11・12)薄手で小形のやや湾曲した縦長剥片を素材とし、打面・打瘤を残したまま刃部正面から左(または右)側縁にかけて調整を加え刃部を作り出している。11・12は石材と左右の違いはあるものの、非常に類似している。

【2次加工のある剥片】13は横長の剥片を折断、側縁部に撲器状の刃部を作り出そうとした形跡があるが、完結していない。14は縦のある縦長剥片の主要剝離面の左側から十数回にわたって調整を加えているが、その意図は不明である。

1~5は表面採集またはIIa層からの出土であり繩文時代の所産と考えられる。6~12は、IIb層からの出土であり、旧石器時代の所産と考えられる。13・14は不明である。



第5図 遺物実測図

No	器種	地区名	遺存状態	層位	材質	長さmm	幅mm	厚さmm	重さg	備考
1	石錐		表 摂 完 形	—	頁岩	27	17	4	1.2	
2	〃	F-1	先端部欠損	II a層	〃	23	27	4	1.9	RQ-53
3	〃		表 摂 先端部欠損	—	〃	20	12	3	0.8	
4	〃	F-2	基部欠損	II a層	〃	21	9	3	0.5	RQ-101
5	石錐		表 摂 完 形	—	〃	62	31	13	17.3	
6	木葉形尖頭器	G-4	先端部欠損	II b層	〃	72	45	8	29.0	RQ-152
7	振器	G-1	完 形	〃	〃	61	32	6	14.2	RQ-37
8	〃	G-7	一部欠損	〃	〃	57	43	12	29.3	RQ-200
9	〃	D-5	完 形	〃	〃	58	36	9	13.5	RQ-174
10	〃	F-2	〃	〃	〃	76	46	8	25.4	RQ-88
11	〃	H-7	〃	〃	〃	47	27	5	5.8	RQ-199
12	〃	H-6	〃	〃	〃	41	26	5	4.2	RQ-195
13	剝片(二次加工有り)	表 摂 一部欠損	—	〃	31	33	13	11.5		
14	〃 ( 〃 )	〃	完 形	—	〃	75	23	20	27.6	

表1 石器計測一覧表

## IV まとめ

調査によって得られた成果は、次のようにまとめられる。

- (1) 検出された遺物は、ツールとして石錐4点、石錐1点、木葉形尖頭器（部分）1点、振器6点の計12点。2次加工のある剝片2点、その他の剝片・碎片が約200点である。土器は全く検出されていない。
- (2) 小丘陵上の狭い区域に位置すること、遺物の数が少ないと、遺物の分布の範囲が限られていることなどから、本遺跡はごく限られた期間に限られた人数によって利用されたキャンプサイト的な場所であると考えられる。生活の本拠地（ベースキャンプ）は他のところにあった可能性が高い。
- (3) しかしながら、多様な石材を持ち込んで石器を作製したこと、振器の分布状況から動物解体等の生活空間が想定できること、などから、時間的には短かったが密度の濃い活動が行われたと考えられる。
- (4) 実際に道具として使用された石器（ツール）の出土が少なく、欠落している器種も多いため断定はできないが、木葉形尖頭器と振器の組み合わせと、その分布の状況を考えると弓張平B遺跡のW-1ブロックと類似した状況を示していると言える。
- (5) 繩文時代のものと考えられる石器も検出されており、層位的な確認はできなかったものの、繩文時代の人の活動の痕跡もあった。

## [参考文献]

山形県教育委員会『分布調査報告書(5)-弓張平公園関係遺跡』

山形県埋蔵文化財調査報告書第13集 1977年

加藤稔、宇野修平他『弓張平遺跡第1・2次調査報告書』

山形県埋蔵文化財調査報告書第15集 1978年

加藤稔、宇野修平他『弓張平B遺跡第3・4次調査報告書』

山形県埋蔵文化財調査報告書第21集 1979年

阿部明彦『弓張平A遺跡発掘調査報告書』西川町埋蔵文化財調査報告書第1集 1980年

佐藤正俊他『弓張平B遺跡第5次調査報告書』山形県埋蔵文化財調査報告書第28集 1980年

佐藤正俊他『月山沢遺跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財調査報告書第29集 1980年

山形県教育委員会『分布調査報告書(6)』山形県埋蔵文化財調査報告書第182集 1993年

## 報告書抄録

ふりがな	ゆみはりだいら Hいせきはくつちょうきほうこくしょ									
書名	弓張平H遺跡発掘調査報告書									
副書名										
巻次										
シリーズ名	山形県埋蔵文化財センター調査報告書									
シリーズ番号	第14集									
編著者名	浅黄喜悦 志田純子									
編集機関	財団法人 山形県埋蔵文化財センター									
所在地	〒999-31 山形県上山市弁天二丁目15番1号 TEL 0236-72-5301									
発行年月日	西暦 1994年3月31日									
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因		
ゆみはりだいら 弓張平 H	ゆまがなけんにしむか 山形県西村 やまとくにむら 山郡西川町 やまとくにじかわまち 大字志津字 おおざとしづざ あざとしづざ あざとしづざ 姥ヶ岳	市町村	遺跡番号	6322	522	38度 28分 30秒	140度 0分 31秒	19930802～ 19930908	300	都市公園 整備事業
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項				
弓張平H	包蔵地	旧石器時代	――	木葉形尖頭器 縦形搔櫓 剥片、碎片 石鎌、石錐						

報告書抄録

ふりがな	弓ひらだいら日いせきはつくつらうさほうこくしょ					
書名	弓張平H遺跡発掘調査報告書					
副書名						
巻次						
シリーズ名	山形県埋蔵文化財センター調査報告書					
シリーズ番号	第14集					
編著者名	浅賀喜悦 志田純子					
編集機関	財団法人 山形県埋蔵文化財センター					
所在地	〒999-31 山形県上山市弁天二丁目15番1号 TEL 0236-72-5301					
発行年月日	西暦 1994年 3月 31日					
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	北緯 遺跡番号	東経	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>
弓張平 H 山形県西村 山都西川町 大字志津字 姥ヶ岳	6322	522	38度 28分 30秒	140度 0分 31秒	19930802～ 19930908	300 都市公園 整備事業
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
弓張平H	包蔵地	旧石器 時代	——	木葉形尖頭器 縦形撲器 剥片、碎片 石鎚、石錐		

図版



弓張平H遺跡遠景（弓張平公園駐車場より、後方は姥ヶ岳）



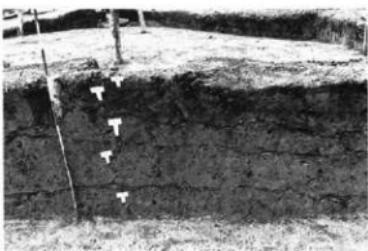
調査開始時の状況（立木伐採作業）



調査開始時の状況(抜根作業)

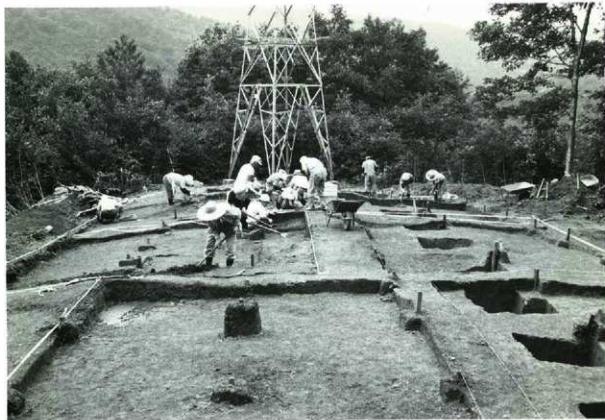


調査状況（西から）



基本層序

図版 2



調査状況（東から）



木葉形尖頭器出土状況（G-4 グリッド）



撃器出土状況（G-7 グリッド）



撃器出土状況（H-7 グリッド）



撃器出土状況（G-1 グリッド）

図版 3



遺物出土状況（G-4 グリッド東から）



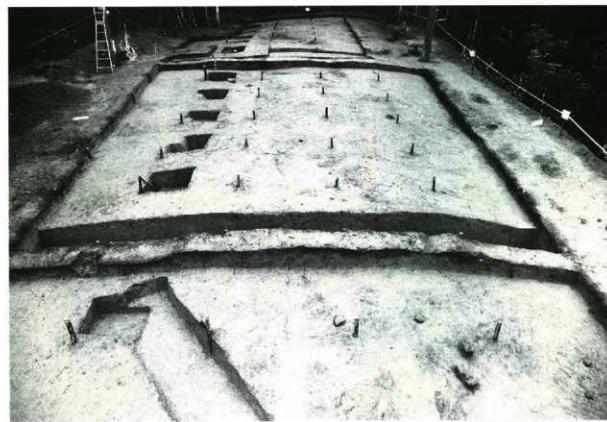
礫群検出状況（H-0 グリッド）



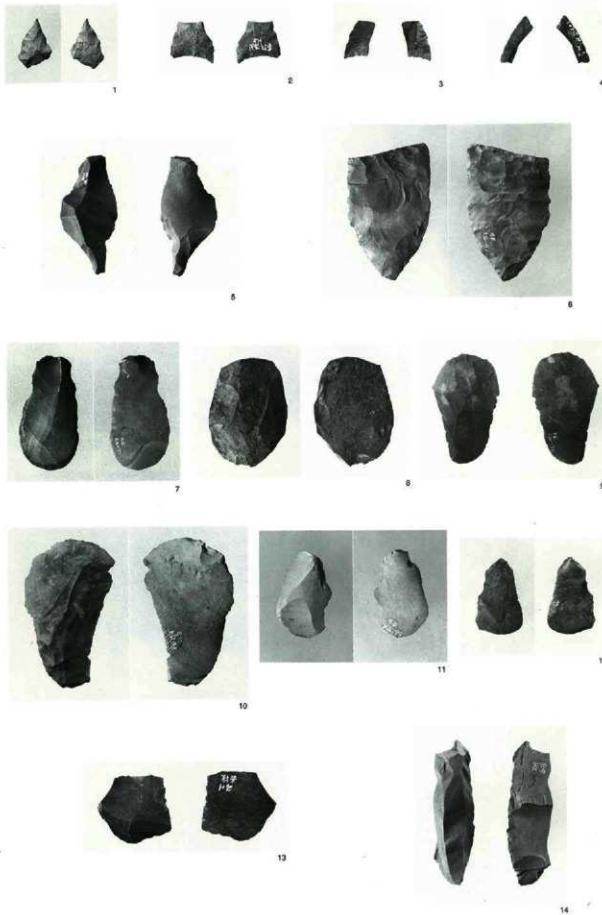
調査説明会状況



調査説明会状況



調査終了状況（西から）



出土遺物

山形県埋蔵文化財センター調査報告書第14集

弓張平H遺跡発掘調査報告書

1994年3月31日 発行

発行 財団法人 山形県埋蔵文化財センター  
〒999-31 山形県上山市弁天二丁目15番1号  
電話 0236-72-5301  
印刷 株式会社田宮印刷所

## 正誤表 熊ノ前遺跡IV次調査報告書